

ジャガイモと映画 (27)

<マッシュポテト(4)>

Web ジャガイモ博物館館長

あさ ま かず お
浅間 和夫

93. クーパー家の晩餐会

(原題: Love the Coopers)

2015年、アメリカ映画。監督:ジェシー・ネルソン。

タイトルの晩餐会^{ばんさんかい}の文字に惹かれ、ジャガイモが何らかの形で出てくるだろうと期待しつつ見ることにした。

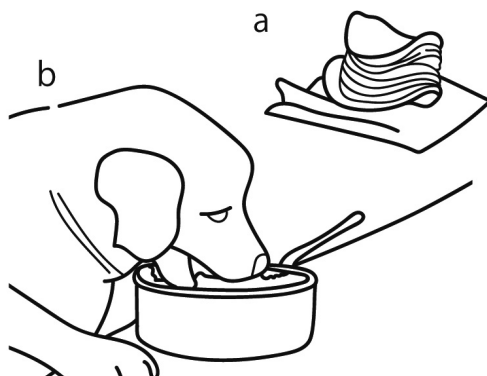
小雪の舞うクリスマス・イヴ。クーパー家では、毎年この日には一族全員が集まり晩餐会を開く習慣となっていた。この日を最後に離婚することを隠している父サム(ジョン・グッドマン)と母シャーロット^{だんらん}(ダイアン・キートン)は、一家団欒はこれが最後・最高のクリスマスにしようとしていた。しかし、秘密を抱えているのはこの二人だけではなかった。映画では、家族の全てが、平行して思いもよらぬ内側を見せていくことになる。

元教師の祖父(アラン・アーキン)にはお気に入りの若いウェイトレス(アマンダ・セイフライド)がおり、その子のいる不味いレストランに通いつめている。創作話の好きな娘のエレノア(オリヴィア・ワイルド)は、不倫の恋を隠すため、空港で出会った青年に恋人役を演じてくれと頼み、電車で一緒にリハーサルをしつつ家に向かう。子持ちの息子のハンク(エド・ヘルムズ)は失業を親に隠し面接を十数回もしてい

る。母の妹で教養のあるエマ(マリサ・トメイ)に至っては、姉にあげるブローチを盗んで口に隠したりして、万引き容疑で黒人警察官に逮捕されてしまい、警察の車で連行され、欠席となるのか、いつものように遅刻するのか気になるところである。

このように、晩餐会は始まる前から波乱満載の状態。しかし時が来て幕が開かれると、予期せぬハプニングから皆の嘘が次々と明かされてしまう。食事中祖父が脳卒中で倒れ、病院に行き、皆がそこのカフェテリアに移動することになり、全員思いもよらぬ方向へと展開していく。その波乱は、最悪なのか最善に収まるのか・・・

このホームコメディーにはジャガイモは少なくとも3度現れる。まず、ハンクが仕事を求めて訪ねた先の机の上に成形ポテトチップス(皮つき生ジャガイモをスライス



挿絵1 マッシュポテト好きのラグス

して袋に入れて売られているものではなく、いもの粉から作られる、形が揃って筒に入れて売られているもの。挿絵 1 a)。次はシャーロットが家族のためのサラダをつくっている時、柄のある鍋のマッシュポテトに愛犬ラグスが口を突っ込む（挿絵 1 b)。3つ目はパーティー中に母が大きなしゃもじでマッシュポテトをすくい上げて「ポテトはいかが」と出すものである。

94. 名探偵ポワロ『ヒッコリー・ロードの殺人』

(原題：Hickory Dickory Dock)

1995年、イギリス映画。監督：アンドリュー・グリーブ。

イギリス生まれのミステリーの女王アガサ・クリスティによって1955年に発表されていたエルキュール・ポアロシリーズの長編推理小説によっている。

ミス・レモンの姉、ハバード夫人が住み込み管理人をしている学生寮で謎の盗難事件が頻発する。無くなったものは、靴の片方だけ、スカーフ、電球、ほう酸、聴診器、リュックサックなど等。警察を呼ぶほどの高級なものが盗まれているわけでもないため、探偵ポワロに相談する。そこで、ピン

と尖った口髭がトレードマークのポワロ（挿絵 2）が捜査に乗り出す。

探偵ものは、ストーリーが複雑であり、真正面に解説すると長くなり、途中視聴者の想像を外す肩透かしがあったり、どんでん返しがあったりすることが多い。これらのネタばれまで書いてしまうと、これから見る人の興味を半減させることになる。そこで、超大雑把に書くこととする。

売って金になる代物がほとんど無いことから、窃盗が目的ではないことが見抜かれ、学生寮のオーナー、ニコレティスがダイヤの密輸をしていることが判ってくる。そのニコレティスは共犯者と思われる何者かに殺される。科学専攻のシーリア、文学専攻のサリー、歴史学専攻のナイジェル、医学生生のレナード、関税局の捜査官、大物政治家スタンリー卿とその息子ナイジェルらが出ており、昔スタンリーを追っていたというジャップ警部がポワロに協力する。これらの絡みや解決へのあらすじは省略し、結末近いエピソードのみ紹介することとする。奥さんが旅行に行ってしまったジャップ警部がポワロ宅に泊まることになる。ポワロの御自慢の手料理が豚足で、口に合わない。見かねたミス・レモンが腕を振るってくれるが、今度は魚と野菜の簡単な料理で、量も少なすぎる。最後はジャップ警部がお礼も兼ねてポアロを自宅に招待する。

そこで出されるのがイギリス流の、レバー団子、マッシュポテト、茹で豆、デザートにはグッチプデングとなる。しかし美食家ポアロの口には不満足。レバー団子はアレルギーになるからダメと避け、日本人なら食べられないほど大量にあったマッシュポテトを中心にいただくことになる。タイ



挿絵2 名探偵ポアロ

トルの『Hickory Dickory Dock』とは、子供向けの遊び歌ナーサリーライム（マザーグース）の一つである。歌詞の内容は、ネズミが時計をかけ登り、時計が1時の鐘を鳴らすと、ネズミが下に降りる・・・といった簡単なものである。

95. 『未知との遭遇』

(原題:Close Encounters of the Third Kind)

1977年、アメリカ。監督:スティーヴン・スピルバーグ。

監督は「ジョーズ (Jaws)」などで知られた人であり、内容は世界各地で発生するUFO遭遇事件と、人類と宇宙人のコンタクトを描いたもの。バミューダトライアングルで行方不明になった戦闘機群や巨大な貨物船が、砂漠に失踪当時の姿のまま突然姿を見せる。謎の発光体があちこちで確認され、原因不明の大規模停電が発生したりする。発電所に勤めるロイ・ニアリー（リチャード・ドレイファス）も停電の復旧作業に向かう途中、不可解な機械の誤作動を起こす飛行物体と遭遇する。

それ以降、憑かれたようにUFOの目撃情報を集め出し、枕やシェービング・クリームに漠然と山のような形を見出すようになる。さらに、インディアナ州に住む少年バリー・ガイラーは家の台所に入り込み冷蔵庫を漁っていた「何者か」と鉢合わせするも、恐れを忘れるように後を追っかけ、その母のジリアンも深夜外に出て行った息子を連れ帰ろうとする途中で飛行物体の編隊



挿絵3 マッシュポテトで悪魔の塔をつくる

と遭遇し閃光を浴び、ロイ同様に山の姿を描くようになる。

飛行物体の群れにバリー少年が拉致された情報が飛ぶ中、フランス人UFO学者のクロード・ラコーム（フランソワ・トリュフォー）は異星人からの接触を確信し、「彼ら」と直接面会する地球側の『第三種接近遭遇』プロジェクトをスタートさせ、「彼ら」からのデータ送信をキャッチする。それが地上の座標を示す信号で、ワイオミング州にあるデビルスタワー（悪魔の塔）という山を指し示していた。宇宙船と遭遇してからのロイの頭に浮かぶのは、寝ても醒めても宇宙船のことばかり。宇宙船を恐れるどころか子供のように興味をもち、生活のすべてが破綻していく。

夕食時に盛り付けられたマッシュポテトを、子供が見ている横で、皿に岩山状に盛り（挿絵3）、狂気さえ漂わせながら作っては壊し、盛っては壊し、必死にその幻想の景色を思い出そうとし、本映画のなかでも印象的なシーンを提供することになる。